様　式　Ｆ－７－１

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）(平成２４年度)

1．機関番号　３２６９２

2．研究機関名　東京工科大学

3．研究種目名　基盤研究(C)

4．補助事業期間　平成２４年度～平成２６年度

5．課題番号　２４５２０６６３

6．研究課題　学習者自律にむけた自己動機づけ方略獲得への支援の試み

7．研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
００１８４９３７	ウエダ　マミ 植田　麻実	教養学環	教授

8．研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
９０５３１７５７	スギノ　トシコ 杉野　俊子	工学院大学・基礎・教養教育部門	教授

9．研究実績の概要

平成２４年度の研究の具体的内容：
平成２５年度の本アンケート調査のための予備調査として、本研究に携わる４名（研究代表者、研究分担者、連携研究者、研究協力者、各１名ずつ）により計１０名の学生に対してインタビューを行った。内容としては、自己動機づけ方略につながる、被験者が英語学習に対しての動機を無くした場合の具体的な経験や、動機を取り戻した際の具体的な状況、そして彼らの動機を保ち続けるための自己動機づけ方略に関してであった。１０人のインタビューの内容はすべてスクリプトとして起こし、ストラテジーの抽出はコーディング作業により行われた。結果は、平成２４年１０月３０日に開催されたThe 11th International Symposium on Advanced Technology（工学院大学）において発表した（この内容は平成２５年、論文にする予定である）。

意義：意義は、本科研の研究目的である、学習者が自己動機づけ方略をどのように獲得しているかの多岐に及ぶ具体例を集めることができたことである。本研究の計画にあたっては、伊藤(2011)とOxford (2007)の理論をフレームワークとしていたが、やはりインタビューという形式をとったことで、被験者の現在に至るまでの経験に関して予想を超える個人的な多様な事例が集まり、それらによって、本研究調査に質的な部分を取り入れることの重要性の再認識を得ることとなり、その意義は大きい。

重要性としては、この予備調査を通して、本アンケートの最初のグループ分けである枠ぐみ、すなわち、英語学習の自己動機づけ方略として、自身を、あるいは学校での授業を、あるいは日本社会のどれを最重視しているかにも焦点を当てる事としたが、それはアンケート作成においてその中心となる事柄であり今後の研究実施につながって行くことである。

10. キーワード

(1) 自己動機づけ方略　(2) motivation　(3) demotivation　(4)

(5)　(6)　(7)　(8)

11. 現在までの達成度

（区分）（2）おおむね順調に進展している。

（理由）

当初の計画にそって進めてきた。初年度の計画としては、予備調査を行い、それをまとめて発表し、予備調査の結果を本調査のための資料とし、本調査が実施できるまでの準備をする、というのが初年度の計画であり、順調に進んでいる。

12. 今後の研究の推進方策　等

（今後の推進方策）

平成25年度は、研究計画通りに、前期にアンケート調査を実施する。後期、１１月に台湾における学会で発表が決定しているため、それまでの間にその結果をまとめる。またこの学会における論文は夏季に完成する予定である。１１月以降は、平成26年度の夏に発表を予定しているオーストラリアでの発表に向けて準備を進める予定である。

（次年度の研究費の使用計画）

平成25年度の研究費の使用計画としては、アンケートの作成および実施（レイアウト依頼、印刷依頼、郵送費等）に関しての費用を見込んでいる。

また、台湾での学会（The 22nd International Symposium on English Teaching）に参加するための費用を見込んでいる。繰越金が生じた状況・理由に関しては、台湾学会への平成24年度の参加に関する費用の予算として、実際にかかった費用よりも多めに見込んでいた事と、ニュージーランドへの学会発表においても、航空運賃および滞在ホテル代金を実際にかかった費用より多めに見込んでいた事による。

これにより平成25年度以降に請求する研究費と合わせた使用計画に関して、当初の予定額との間に差異が生じるが、アンケートの自由記述の字起こしなど、予算の振れ幅が大きいものも含まれるため、その幅が予算を超えた場合にそなえて、繰越金は、平成25年度に付加する。

13.研究発表（平成24年度の研究成果）

〔雑誌論文〕 計(2)件　うち査読付論文 計(2)件

著 者 名	論 文 標 題
Mami Ueda, Emika Abe	From reactive to proactive autonomy in English newspaper classes

雑 誌 名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
Selected Papers from the Twenty-first Interantional Symposium on English Teaching	有	21	2012	370-376

掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）
なし

著 者 名	論 文 標 題
Toshie Agawa, Mami Ueda	How Japanese students perceive demotivation toward English study and overcome such feelings

雑 誌 名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
JACET Journal	有	56	2013	1-18

掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）
なし

〔学会発表〕 計(5)件　うち招待講演 計(1)件

発 表 者 名	発 表 標 題
Emika Abe, Mami Ueda	Technology-based project work: enhancing English learning motivation in Japanese university students

学 会 等 名	発表年月日	発 表 場 所
Independent Learning Association	2012年09月01日～2012年09月01日	Victoria University,Welington, NZ

発 表 者 名	発 表 標 題	
植田麻実	英字新聞を使った効果的授業	
学 会 等 名	発表年月日	発 表 場 所
Japan Association for Practical English (日本実用英語学会)	2012年09月16日～2012年09月16日	青森公立大学（青森県）

発 表 者 名	発 表 標 題	
植田麻実, 阿部恵美佳	英語のやる気をおこさせるには	
学 会 等 名	発表年月日	発 表 場 所
関東甲信越英語教育学会（招待講演）	2012年10月27日～2012年10月27日	お茶の水女子大学付属高校（東京都）

発 表 者 名	発 表 標 題	
Toshiko,Sugino,Mami Ueda, Sunao Shimizu	Motivational Strategies:How do learners keep their motivation and cope with demotivation?	
学 会 等 名	発表年月日	発 表 場 所
International Symposium on Advanced Technology (ISAT-Special)	2012年10月30日～2012年10月30日	工学院大学(東京都)

発 表 者 名	発 表 標 題	
Mami Ueda, Emika Abe	From Reactive to proactive autonomy in English newspaper classes	
学 会 等 名	発表年月日	発 表 場 所
21st International Symposium on English Teaching	2012年11月10日～2012年11月10日	Chien Tan Oversseas Your Activity Center, Taipei, Taiwan

〔図書〕 計（０）件

著 者 名	出 版 社		
書　名		発行年	総ページ数

14.研究成果による産業財産権の出願･取得状況

〔出願〕 計（０）件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内･外国の別

〔取得〕 計（０）件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内･外国の別
				出願年月日	

15.備考